

目次

CONTENTS

沿革、発刊にあたって	2	黒石の名物	9
市民憲章、黒石市民の歌	3	黒石の四季	10
施策紹介	4	黒石市の名所マップ	12
黒石市の花・木・鳥、姉妹都市	7	黒石市のあゆみ	14
議会、行政機構図	8		

沿革

昭和29年7月1日に黒石町のほか4村が合併し、県内で4番目の市制を施行。後に尾上町の一部を編入し現在に至ります。

国道102号と東北縦貫自動車道黒石インターチェンジ、さらには県土を横断する国道394号を擁し、至近距離に青森空港があるなど、交通の要衝としての役割も増大しています。

古くから「米とりんごと温泉の田園観光都市」として親しまれ、平成17年には「中町こみせ通り」が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されるなど、城下町の風情を残した町並みや建造物が高く評価されています。

発刊にあたって



黒石市長
高 樋 憲

黒石市は、青森県のほぼ中央に位置し、三方に津軽平野、東に八甲田連峰が連なる自然と豊富な温泉に恵まれ、味の良い「黒石米」と「黒石りんご」の産地として知られている古くからの城下町です。

また、十和田湖の西玄関口にあたり、青森空港や東北新幹線新青森駅まで約40分と観光地へのアクセスにも優れ、四季の彩豊かな魅力ある「田園観光産業都市」を目指しております。

今、地方自治体は、人口減少克服に向けた対策や地域が自立的に持続可能な社会を作り出すことが求められています。このような中、私は、市民が誇りと自信を持てる「誇れる故郷、黒石市」の実現に向け、「元氣な黒石」、「安心な黒石」、「自立した黒石」の3つを柱に掲げ、黒石市が誇る多くの地域資源や黒石力(=コミュニティ力)を最大限に生かしたまちづくりに取り組んでまいります。

この市勢要覧が、本市の魅力や施策などをご理解いただく一助になれば幸いです。

市民憲章

黒石市は、えぞ地であった昔から、水清く人情のあついあずましの里として栄え、「米とりんごといで湯」を誇り、「よされ、ねぶた」を愛してきたまちです。

わたくしたちは、これまでつちかわれてきた郷土の文化をさらに高め、豊かで活気にみなぎる黒石市の実現を願って、ここに市民憲章をかかげます。

わたくしたちは

- ふるさとを愛し、水と緑を生かす
さわやかなまちをつくります。
- 心のぬくもりをひろげ、未来をはぐくむ
ふれあいのまちをつくります。
- からだをきたえ、働くことに喜びをもつ
すこやかなまちをつくります。
- 歴史をあたため、かおり高い文化を築く
学びあうまちをつくります。
- 豊かな郷土をめざし、創意と活力に満ちた
のびゆくまちをつくります。

(昭和59年7月1日制定)

黒石市民の歌

- 一 青い山並 目にしみて 流れさやかな 津軽野の
東ゆたかに 幸多し 生きがいのある この街に
未来をひらく 虹かかる ああわれら 若い力の黒石市民
- 二 りんごの花の 咲く丘の 匂いいたよう わが里に
老いも若きも 笑顔もつ 湯の香人の和 この街に
未来をひらく 汗光る ああわれら 築く力の黒石市民
- 三 かおる歴史の ふく風に 稲田みのりて 黄金しき
ねぶたよされの にぎわしく 高き文化の この街に
未来をひらく いのりあり ああわれら 伸びる力の黒石市民

(昭和58年1月1日制定)

《市章・ふつ》



《市章》

黒石藩の旗印と替紋。明治22年から黒石町が町章として用いたものを、市制施行後もそのまま採用。古くは、中国の春秋時代(約2,500年前)の頃、公服に使われた階級12章の一つにふつ(星の意)があったといわれています。

